

基礎ゼミの展開

小峰 総一郎

	はじめのつどい 第Ⅰセッション＝基礎ゼミへの態勢づくり 第Ⅱセッション＝伝える、書く 1. 聞いて聞いて 2. 伝える技法 3. 書く 第Ⅲセッション＝世界の人とこと 1. 議論の技法 2. 論ずる おわりのつどい
---	---

♪♪ Gaudeamus igitur. Iuvenes dum sumus... ♪♪

ゼミ室に時ならぬ合唱歌声。ユーチューブの「伴奏」でグループ対抗歌合戦。歌はAKB48の曲ではない、中世ヨーロッパの学生歌「わがゆく道は」だ。見よう見まねのラテン語。しかしヨーロッパ中からボローニアやサレルノ、あるいはパリに集って学問と人生を問うた遍歴学生に思いを馳せる。「生徒」から「学生」へ。大学入門教育の開始である。以下、ここ何年かの1年生「基礎ゼミ」（名古屋学舎、春学期）の横顔を紹介する。

【内容と展開】

(ゼミスタート時——グループづくり、写真と名簿、入学面接、10年後の自分像)

- ・ここ数年は25名。男女比が同じになるよう籤を作り5班。半期固定。グループの「島」は部屋で固定、グループ長・ゼミ長選出。歌合戦、面接、プレゼンもグループ単位。
- ・名簿をつくる。個票に各人の横顔を書いてもらいマスプリ。ゼミ開始時の写真を表紙に使う（門外不出）。これを使って自己紹介。入学「面接」——本学志望や個性を知る。
- ・「10年後の私——本学での何が彼（女）をそうさせたか」。連休明けに提出。

(伝える、書く——天声人語プレゼン、教員論文批評、図書館ガイダンス)

- ・天声人語（編集手帳）書き写し、寸評プレゼン。「文は人なり」と知る。
- ・教員の論文抜刷を配布、「何を問題にしているか、面白いと思った点、考えたこと」を記し提出。「深読み感想文」を数編複写し配布。他人の読みに学ぶ。
- ・図書館ガイダンス。国会図書館並のシステムや源氏物語、マルクスの貴重書を見る。

(議論、プレゼン)

- ・「発表申告カード」で準備した伝えたい「問題」、「感動」等をレジュメ、グッズを使いプレゼン5回（15テーマ：イスラム国、ビリギャル、ドローン、デイズニューシー、イグ・ノーベル賞、日本語、ケツアゴ、ヒッチハイク、マージャン、ユーチューバー、クローン病、ヤンデレとメンタルヘルス、つくくび声帯摘出、動物園、歴史ゲーム、ブラック企業、魔女の家、パスタ、筋トレ、伊賀上野、迷惑メール、大阪都構想、和食（幾つかテーマ重複）。カーボン紙を使い批評カードを発表者と教員に提出。評価・感想も記す。司会・運営は各班回り持ち。
- ・新書を配布、班と班で議論バトル（最近のテキスト：『学び続ける力』、『子どもの貧困』、『なぜ日本人は...死刑を是とするのか』、など。ゼミ費で購入し配布）

(ゼミ終盤)

- ・各人の振り返り。プレゼン結果発表、コメント。おわりの集いはジュース、ゲームもとり入れて。内容はゼミ長やグループ長のアイディアに任せる。学生は意欲的だ。

【まとめ】

- ・ゼミ目標：「メンバーと仲良くなる」、「大学生活の入門トレーニングをする」。
- ・近年受講希望者は多くなった。大学に「ゼミ」を求めている（カップル？らしき者もできるようだ）。半期のゼミを契機に、学生たちがここ（本学）をロードスと思い定め、大きく跳んで行ってほしいと願っている（彼らの卒論、帰国報告会などに接し、大きく育った姿を見るのは嬉しい）。

参考：「平成18年度 高崎経済大学特別研究報告書 大学全入化時代におけるスタディ・スキルズ教育に関する基礎的研究」平成19年3月、高崎経済大学

<http://www1.tcu.ac.jp/home1/takamatsu/Reports/H18>（最終閲覧：2016/04/06）